中央家畜市場通信

令和６年３月号

作成／宮古農業改良普及センター岩泉普及サブセンター

良い草を作る ～春季の雑草防除～

Ⅰ ギシギシの防除

- 除草剤は、**ギシギシの生育初期に散布**するのが効果的です。
- 除草剤によって**使用時期が決まっています**（表１）。
- ギシギシの**葉が展葉（図１）してから防除**しましょう。出穂後に除草剤を散布しても、種がこぼれ、翌年にはギシギシが発生してしまいます。
- ギシギシを防除しても、**裸地があると新たな雑草が侵入**してきます。
  ギシギシが枯死した後の牧草種子追播を検討しましょう。
- ギシギシに効果がある薬剤は3剤ありますが、各薬剤の**使用は年１回まで**です。
  春に使用した薬剤は、１番草収穫以降には使えません。
- 春と夏に除草剤を散布する場合は、**春にアージラン、夏にハーモニーを散布**するのが望ましいです。

表１ 除草剤の使用時期、使用方法、使用上の注意事項

	農薬名	対象雑草	10a当り散布量	使用回数	使用時期	使用方法	使用上の注意事項
経年草地	ハーモニー 75DF水和剤	ギシギシ類、一年生広葉雑草	3~5g 希釈水量100ℓ	1回	雑草生育期【散布後21日間は、採草及び放牧は行わない】	雑草茎葉散布または全面散布	◇ギシギシの葉が展開してから散布する（図1）。◇クローバに薬害が出る恐れがあるので使用しない。
	ハーモニー DF水和剤	ギシギシ類、一年生広葉雑草	3~5g 希釈水量100ℓ	1回			
	アージラン 液剤	ギシギシ類及びキク科の雑草	400~600mℓ 希釈水量80~100ℓ	1回	ギシギシ類の展葉期【散布後14日間は、採草及び放牧は行わない】	雑草茎葉散布または全面散布	◇高温期は牧草に薬害が出るので、6~8月は使用できない。
新播草地	ハーモニー 75DF水和剤	ギシギシ類	0.5~1g 希釈水量100ℓ	1回	牧草定着後【散布後21日間は、採草及び放牧は行わない】	雑草茎葉散布または全面散布	◇ギシギシの葉が展開してから散布する（図1）。ただし、草丈20cm以下（図2）◇クローバに薬害が出る恐れがあるので使用しない。
	ハーモニー DF水和剤	ギシギシ類	0.5~1g 希釈水量100ℓ	1回			

この資料は、令和6年3月12日現在の登録内容に基づき作成しています。農薬使用の際には、容器に記載のラベルで使用基準（作物名、希釈倍率、使用時期等）を確認してください。

図１ ギシギシの葉が展開

図２ 草丈20cm以下

2 牧草の追播（裸地が気になる場合の応急処置として）

■裸地が多い圃場で**1番草を多く収穫するため、春に追播を**おすすめします。

■追播には、**初期生育が優れる一年生牧草がおすすめ**です。（表2）

■多年生牧草の**播種適期は秋**です。**草地更新は秋に**行いましょう。

表2 一年生牧草播種量の目安

	草 種	播種量の目安（10a当り）	備 考
一年生牧草	イタリアンライグラス	4kg以上	耐湿性は強い
	エンバク	8kg以上	耐湿性は弱い

■雪解け水により、**土壌水分が豊富な時期が最適**です。
（4月初め頃、ほ場が乾きトラクタ作業が出来るようになったら直ぐに行う。）

■播種前に、デスクハローやロータリーハローを使って**土を露出させてから、播種・鎮圧作業を行って**ください。

■追播時に施肥は行わず、追播後1か月程度してから、**発芽した牧草の生育を見て施肥**してください。（例えば、硫安を10kg／10a）

≪子牛を大きく育てよう！≫～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→

○ 育成牛へのエサやり（飼料給与）について

育成牛は骨格も内蔵も成長中ですので、十分な栄養が必要です。
また、粗飼料の給与により内蔵を十分に発達させる時期でもあります。

◎ 育成期＝成長期　しっかり食わせて　しっかりおがらせて!!

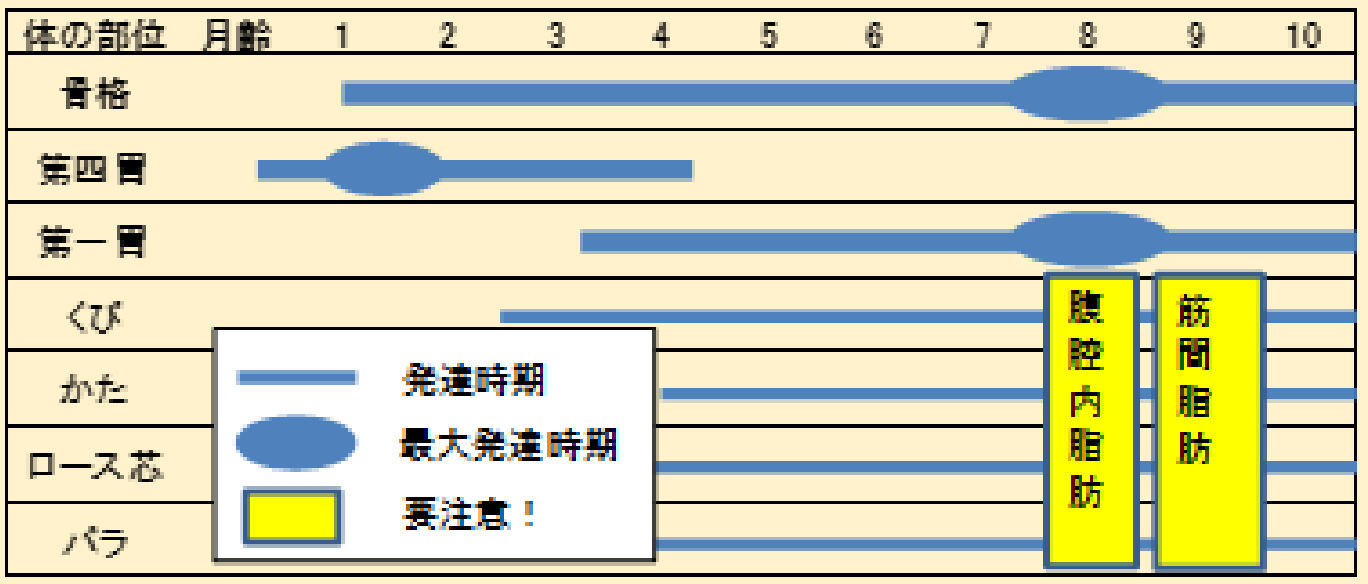
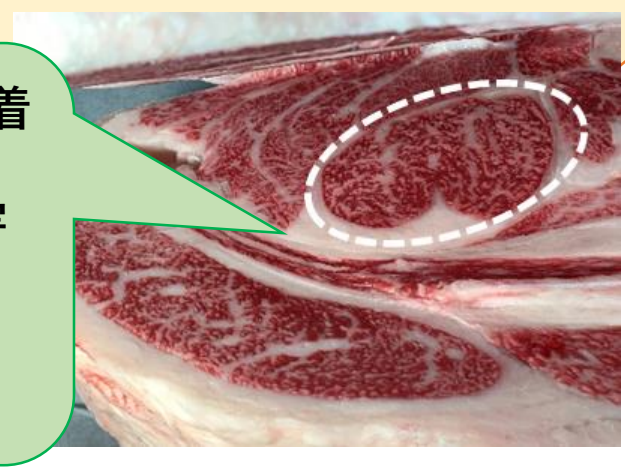


図２　各部位の発達時期

第一胃を『つくる』時期である6ヶ月齢までは栄養価が高く柔らかめの草（再生草）を
第一胃を『育てる』時期である7カ月齢以降は硬めの草（1番草）を与えましょう

注意

・ 8カ月齢前後は、**脂肪**がつきやすい時期でもある一方、余計な脂肪は購買者に敬遠されます。
・ 配合飼料は月齢に応じた必要量を、粗飼料は不断給餌（飼槽を空にしない）としましょう。



写真：脂肪組織により変形したロース芯